飯田市歴史研究所ホームページ：http://www.city.iida.lg.jp/soshiki/39/

飯田市 歴研ニュース

News Letter No.92
The Iida City Institute of Historical Research

2018年2月1日 発行

飯田市歴史研究所
〒395-0803
長野県飯田市鼎下山538
TEL 0265-53-4670
FAX 0265-21-1173
E-mail iihr@city.iida.nagano.jp

歴史研究所 移転先のお披露目式を開催しました

14年前の歴史研究所の開所日にあたる12月2日、鼎下山の旧鼎東保育園への移転作業が完了したことを機にお披露目式を開き、関係者や地元の代表の方約30人に出席いただきました。式に際して主催者を代表して佐藤副市長から、リニアや三遠南信自動車道の開通など大きな変化の中にある時こそ、地域の過去の積み重ねに学び未来をつくっていくことが大切とあいさつがあり、地元鼎地区まちづくり委員会の水口会長からは、若者が鼎の良さを知り、地元に残りたいと感じてくれるような活動に期待する言葉をいただきました。それに対して吉田所長からは、地元の皆さんと交流しながら調査研究を展開したいと移転先での初心が述べられました。式典後、参加者は所員の説明を受けながら、保育園から改修された研究所内を巡りました。

歴史研究所へお越しの皆様へ

歴史研究所のすぐ南側の道路（市道鼎35号線）にありました「7時30分～9時30分の間は歩行者用道路」とする規制は、昨年12月に解除となりました。この道路からお越しの場合は、道幅が狭いので十分気を付けてお越しください。

なお、もう1本南側の道路（市道2-89号線）の歴史研究所に入るＴ字路付近の電柱に案内看板が付きましたので、こちらを目印にお越しいただければと思います。

電柱に、歴史研究所の案内看板が付きました。

歩行者用道路(7時30分～9時30分)は解除されました。

地域史講座「山里の景観と木材利用」を開催しました

今回で3回目の開催となる、南信濃公民館における「山里の景観と木材利用」をテーマとした地域史講座が12月16日に開催されました。戦後に植林された木材が伐採時期を迎え、全国的に地域材の利用が模索される中で、地域の木材が盛んに使われていた近世・近代の木材利用の手法やその変遷について、飯田・下伊那地方とその他の地域の事例をふまえながら検討する機会となりました。羽田研究員は、近世座光寺村の郷蔵普請における文書資料の解読により、近世における村内の木材運用の実態について報告し、名古屋女子大学の青柳由佳講師からは、飛騨地方の事例について、また樋口研究員からは木曽地方の事例について報告がありました。

飯田・下伊那の歴史と景観 その7 清内路の水路と路地

上下清内路集落は、背後に山を背負い、それぞれ清内路川、黒川に傾斜する台地上に立地している。台地上では生活水の確保のために、簡易水道が敷設されるまでは、井戸水と湧水、沢水を併用していた。沢水は木や竹の樋で引水し、木製の舟にためて家庭用水としていた。水道が整備されるのは特に水の便の悪かった下清内路では昭和30年、沢水が豊富な上清内路では昭和51年のことである。

現在も下清内路には湧水を用いた水場や井戸が残されており、さらに地域の方の話では 簡易水道敷設以前には、図のように上水路が設けられていたという。上水路は、集落の南東の梨野沢から引水したものが古いとされ、飯田へ抜ける梨野峠への街道（水路が平行していた）と清内路諏訪神社から湧き出した湧水を利用した上水路沿いに並ぶ家々の姿が嘉永4年（1851）の「清内路関所絵図」に描かれている。年代は定かではないがその後、集落北西の宇須良（うすら）沢からも引水され、それに応じて集落内の家並みも西側に広がった可能性がある。現在は水路が暗渠化したり、路地となり、細い路地の脇に家屋が建ち並ぶ、下清内路独特の景観を生み出している。

（研究員 樋口 貴彦）

下清内路の家屋の配置とかつての水路

台地上に形成された下清内路の集落

水路跡の路地の脇に残る水場

ワークショップ

「日記・自分史・聞き取り」をめぐって

■日時　平成30年 **2月17日(土)** 9:30〜12:30

■場所　**飯田市歴史研究所 研修室**（飯田市鼎下山538）

■報告　「胡桃澤盛日記・飯田町の暮らし・夜間高校ヒストリー」 田中 雅孝（歴史研究所調査研究員）
「書き留め、書き起こす側から」 粟谷 真寿美（歴史研究所市民研究員）
「久保田諫さんの語りと豊丘村 —〈沈黙〉を解き始めるまで—」 本島 和人（歴史研究所調査研究員）

■講演　**「記録を遺す意味 —「日記・自分史・聞き取り」という資料の特徴を中心に—」**
安岡 健一（歴史研究所調査研究員・大阪大学大学院准教授）

※参加費や事前のお申し込みは必要ありません。どなたでもご参加いただけますので、お気軽にお越しください。

研究活動助成報告会を開催します

歴史研究所では、個人や団体の歴史研究活動に対して助成を行っています。今年度、助成を申請された方の研究報告を行います。

開催日：平成30年 **2月24日(土)**
時　間：**10：00〜11：00**
会　場：**飯田市歴史研究所 研修室**
（飯田市鼎下山538）

報　告

「ミチューリン会機関紙に見る
農業技術運動の展開と変容」（仮）
壬生 雅穂

リレーミニエッセイ⑫

あの夏の日in飯田　山田風太郎「戦中派不戦日記」

橋部　進（歴史研究所市民研究員）

昭和20年8月15日、山田風太郎は、終戦の詔勅を、飯田市内にあった「大安食堂」で聞いています。その年の6月末から10月中旬まで学校疎開のため、東京医専（東京医科大学）の学生として飯田にいました。

近代日本の屈指の傑作日記である**「戦中派不戦日記」**の舞台は飯田がからんでいます。戦時中と敗戦の体験は、山田にとって生涯でいちばんの出来事でした。敗戦の詔勅を聞いての23歳の青年の思いの記録は、いまなお、我われに迫るものがあります。

丸山国民学校、上郷の天理教伊那分会が、東京医大の疎開教室でした。市内に下宿していました。松川の川辺にて酒をのんだり、天竜峡遊山をしたり、伊賀良中村まで家主の荷物疎開のリアカーを押して行ったりしました。炭の引き取りのため大平街道の一(市)之瀬までも行っています。また、風越山、長姫神社も登場します。飯田市内の建物疎開の記述もあります。昭和20年の飯田の街の様子がよくわかります。

山田風太郎は、一般には、エロい忍者小説の作家くらいに思われているかも知れません。しかし、その実相は、特異な着眼点をもつ偉大な思索者であります。晩年まで、その姿勢は崩しませんでした。多数の愛読者から、今でもまたこれからも、その特異な知識見識に裏付けられた作家として、揺るぎない評価があります。

その山田風太郎「戦中派不戦日記」の読み合わせが始まりました。**「思想史ワークショップ」**という看板で、私たちは、飯田市歴史研究所にて、価値があると思われる資料の「読み合わせ会」を、月に2回（第1、3水曜日PM7：00より）開催しています。料金は無料、テキスト代（本代）のみ要ります。いままでは、清沢洌「暗黒日記」（岩波文庫）をテキストにして、読み合わせ、感想交換をしてきました（読了）。ハマれば、大変有意義な時間がもてるとおもいます。

昭和20年の「山田」と「飯田」を探る歴史タイムトリップをしてみませんか?自分の出自を確かめる（飯田下伊那を知る）良い機会になるかもしれません。気軽にお出かけください。仲間の皆さんを、お待ちいたしております。

大平の歴史と古文書 ～大平紙屋文書をよみとく～

去る11月12日に「晩秋の大平宿と大平街道≪歴史散策の旅≫～大平宿に残る江戸時代の古文書『紙屋文書』を繙く～」というツアーが株式会社 南信州観光公社によって企画・実施されました。飯田市や飯田市教育委員会とともに、飯田市歴史研究所もこれに協力し、「大平の歴史と古文書～大平紙屋文書をよみとく～」と題して参加者の皆様に大平の歴史について解説しました。紙屋文書は、大平の頭取をつとめた大蔵家に伝来した史料群で、大平が開発される前後から近代にかけての史料が豊富に残っています。

飯田市歴史研究所は、かつてこの史料を調査・整理し、その成果をもとに今回大平の歴史について解説させて頂きました。大平を流れる黒川の流域には、すでに18世紀の初めまでには木地師が入って轆轤をまわしていたことが文献からわかります。大平開発は宝暦4（1754）年に大横町の山田屋新七から飯田藩へ請願されました。大平に用益権を持つ北方などの村々はこれに反対しますが、飯田藩はこれを却下しました。大平の開発には木地師であった大蔵家の先祖や飯田藩の重鎮であった黒須楠右衛門らの思惑も絡んでいたものと思われます。大平はその後宿場町として発展し、明治期にも木曽方面から飯田へ運ばれる荷物やそれを運ぶ人々など、多くの人や物が往来しました。そうした歴史を振り返りながら、参加者の方々とともに大平を散策しました。

（研究員　千葉 拓真）

飯田アカデミア2017 第82講座

海外史料から読む幕末維新史

講　師　保谷　徹さん（東京大学史料編纂所教授）
会　場　松尾公民館 2階講座室（飯田市松尾城4012-1）
受講料　500円（資料代）

3月10日（土）　第①講 13：30〜15：00／第②講 15：20〜16：50

①「在外日本関係史料調査の歴史と日本コレクション —ロシア調査の事例から—」

海外に所在する日本関係史料（在外日本関係史料）調査とデジタルアーカイヴ化事業の概要を紹介し、近年取り組んでいるロシア調査の事例から、19世紀初頭ロシアとの北方紛争について取り上げます。この紛争の接収品はロシアの旧都サンクトペテルブルクへ送られ、現地の日本コレクションの一部となっています。

②「攘夷主義と対外戦争の危機」

開港後の攘夷運動の高揚は、外国人へのテロ・襲撃事件を招き、幕府は「人心不折り合い」を理由に、いちど開いた港を再度閉ざそうとしました(鎖港要求)。これに対し、通商体制の維持・拡大を主張する条約諸国はどのような対応を取ろうとしたのか、1864年の下関戦争、そして翌年の条約勅許に結果する過程を海外史料から読み解きます。

3月11日（日）　第③講 10：00〜11：30／第④講 13：00〜14：30

③「国際法のなかの戊辰戦争」

1868年に開始された戊辰戦争は、江戸幕府支配を一掃し、明治日本の中央集権体制への道を開く内戦でした。条約諸国は局外中立策をとりますが、日本周辺への海軍力配備は怠りませんでした。この内戦は、国際法と国際監視の中でおこなわれた戦争でもありました。最新の研究成果を紹介しながら、各国の思惑と行動を読み解きたいと思います。

④「ガラス原板写真に見る明治初年の日本」

コロジオン湿板写真のガラス原板ネガには高精細な画像情報が含まれています。国内にはほとんど存在しないこうしたガラス原板が、海外調査で新たに「発見」されています。ここでは、オーストリアでの写真史料調査の成果から、ガラス原板ネガに記録された幕末・明治初期日本の原風景を読み解いてみたいと思います。

※1日のみ、または1講義のみでもご参加いただけます。受講をご希望の方は歴史研究までお申し込みください。当日参加も可能です。

飯田・上飯田の歴史シリーズ第7回

地域史講座

青年運動と平和運動 —飯田の街から

よく知られているように飯田・下伊那地域は活発な青年団運動が社会・文化的に大きな役割をもった地域でした。戦後にあっては、平和の問題が新たな課題として提起されてくることになります。青年団運動をはじめ高校生や若い世代の労働者たちも平和運動に参加していきます。

こうした青年たちの動きを軸に、『飯田・上飯田の歴史』下巻の成果をさらにほりさげるかたちで内容を構成してみたいと思います。

開催日：**3月17日（土）**
時　間：14：00〜15：30
講　師：大串 潤児（顧問研究員・信州大学准教授）
会　場：飯田市役所 C棟3階会議室（飯田市大久保町2534）

※参加費や事前のお申し込みは必要ありません。

定例研究会

飯田下伊那にもあった少年農兵隊 —戦時中の食糧増産隊—

開催日：**2月17日（土）**
報告者：原　英章（調査研究員）

「皇紀二千六百年」行事と下伊那

開催日：**3月3日（土）**
報告者：齊藤　俊江（調査研究員）

いずれも　時　間：14：00〜16：00
　　場　所：歴史研究所 研修室

※定例研究会は公開で行っています。どなたでもご参加いただけます。

歴研ゼミ&ワークショップ 2月・3月の予定

受講生募集！スタッフとともに歴史を学んでみませんか。
場所：歴史研究所 研修室

近世史ゼミ
2月6日・20日
3月13日
19：00〜20：40
担当：千葉拓真（研究員）

近現代史ゼミ
2月10日・24日
3月10日・27日
10：00〜11：40
※24日は研究活動助成報告会と合同
担当：田中雅孝（調査研究員）

満州移民研究ゼミ
第78回 2月3日
第79回 3月3日
10：00〜11：40
担当：本島和人（調査研究員）

地域史(川路)ゼミ
2月14日・28日
3月14日・28日
18：30〜20：40
会場：川路公民館2階視聴覚室
担当：羽田真也（研究員）

わが町の建築史ゼミ
2月15日
3月15日
18：30〜20：00
会場：旧飯田測候所
担当：樋口貴彦（研究員）

思想史ワークショップ
2月7日・21日
3月7日
19：00〜20：40
市民の皆さんが自主的に学び合う場

自分史ワークショップ
2月24日
3月24日
14：00〜15：30
市民の皆さんが自主的に学び合う場

ゼミ・ワークショップの詳細につきましては、歴史研究所までお問い合わせください。　TEL：0265 - 53 - 4670

開所時間：午前9時〜午後5時　休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日〜1月3日